

令和7年度 研究推進計画

廿日市市立宮内小学校

I 研究主題

自ら考え 互いを尊重し 学び続ける児童の育成

～個別最適な学びの中で ふりかえりの連続を通して～

II 主題設定の理由

これからの時代は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5, 0時代」や、先行きが不透明な「予測困難な時代」と言われている。このような、急激に変化する時代を生き抜くために、児童は自分のよさや可能性を認識するとともに、自分とはちがう価値観をもった他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く力が必要とされている。そのためには、自分で考え、判断し、行動する自立の力が必要である。また、個人だけでなく社会全体の幸福も実現させるため、他人を尊重し、人とのつながりや思いやりなど協調的な幸福感を育むウエルビーイングの実現を目指すことも求められている。

本校では昨年度、研究主題を「自ら考え学び高め合う姿を目指して～適切な目標設定と振り返りの連続を通して～」とし、「目指す児童の姿を明確にした単元構成の過程で、つけたい力と目標の共有を行うことで児童が見通しをもって学習に取り組み、個別最適な学びの中で児童自身が自分に合った学び方を選択し、振り返りを積み重ねることで自己調整力を高めることができれば、自ら考え学び高め合う児童を育成することができるであろう」という仮説を設定し、研究に取り組んだ。

昨年度の実践の成果として、特別支援教育の観点から、個に視点を当て、学びに向かいにくい児童のアセスメントを丁寧に行い支援をすることと、自分で学びを進める児童に具体的手立てを準備することで多様な児童の学びを支援することができることが分かった。また、児童と教師が学習目標と単元のゴールを共有すること、自己選択の場を与えることで、児童自身が見通しをもって学習に意欲的に取り組むことも分かった。

児童アンケート結果では「わからないことをそのままにせず、聞いたり考えたり、ほかにもっとよいやり方はないか考え、学習に前向きに取り組む」など、向上心を図る内容のアンケート結果や「友達の考えやよさを自分の考えに取り入れたり、友達の考えを大切にしながら自分の考えも伝えようとしている」など協調性を図る内容のアンケート結果の肯定的評価がどれも約85～90%と高く、伸び率としてはどれも年間を通して約3%程度伸びた。これは、学習に向かう目指す児童像の視点を示したふりかえりループリックを作成し、つけたい力やゴールを示し、振り返りを積み重ねることで、児童自身が自己分析し、次の学習につなげていく自己調整力を伸ばしていったからだと考えられる。

一方で、標準学力調査では各学年の国語・算数において両教科とも全国平均に達したのは6学年中2学年であった。また、全体で約4割の児童がレベル3に到達しておらず、学力の定着に大きな課題が残った。学力テストの結果分析と教師が普段感じている児童の課題の部分を照らし合わせて協議したところ、低学年からは、基礎基本の定着が挙げられ、全体的には、聞く力、お互いを大切にする土壌づくり、考える力、課題に粘り強く取り組む力などが挙げられた。与えられたものをこなすだけでなく、自分で考え、周りの人と協力して課題を解決していく力をつけていく必要がある。これらの力をつけていくこととあわせて、基礎学力をつけていきたいと考える。個別最適な学びができるように教師が準備していき、その過程で、児童の学ぶ力やお互いを尊重する土台を作っていくことはこれからも継続していきたいと考える。

そこで、今年度は、研究主題を「自ら考え 互いを尊重し 学び続ける児童の育成」とし、副題を「個別最適な学びの中で ふりかえりの連続を通して」とした。取組の中心としては、各単元を通して育てたい資質・能力を明確にした上で、

- ① 主体的に学ぶよう単元構成計画を児童と共有すること。
- ② 個々の学習進度や理解度に応じて、児童自身が学習内容や学習方法を選択決定する個別最適な学びを進めることができる支援を行うこと。
- ③ 本校が目指す学びに向かう意欲を「向上心」「協調性」「忍耐力」の3つの視点とし、その振り返りを繰り返すこと。このような取組を積み重ねることで児童の学びに向かう意欲を伸ばし、自ら考え学び高め合う児童の姿につながると考える。

このような取組を行い、本校の教育目標である「自ら考え学び合い心豊かにたくましく生きる児童の育成」の実現を目指したい。

Ⅲ 基本的な考え方

1 自ら考え互いを尊重し学び続ける児童とは

わかった・できた・またやりたい、楽しさを感じる姿

	具体的な児童の姿
自ら考え 学び続ける	・達成すべき目標を適切に設定し目標達成まで学びを進めることができる ・自分で考え自分のペースで学習を行い、目標を達成することができる ・自分の学びをふり返り、自分の学びや生活に生かしたりすることができる 等
互いを尊重 学び続ける	・自分以外の人を大切にする ・友達の考えやよさを自分の考えに取り入れることができる ・友達の考えを受け入れ大切にしながら、自分の考えを伝えることができる 等

2 個別最適な学びとは

学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めるために、新たに学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する学び

参考：文部科学省 R3「学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料」

個別最適な学びを準備するための個の見取りの方法

- 1 困難さへの気付き（何に困っているのか）
- 2 困難さの背景を考える（子供の見取り）
- 3 指導の工夫と意図的なしかけづくり（教師同士の連携）
- 4 個に応じた手立てを検討・実施（特別支援学級の先生の考えを参考に）
- 5 手立ての効果を確認（子供の学びやすさ）

IV つけたい力と学びを通して本校が目指す児童の姿

向上心・・・自分の能力・性質などをより優れたものにしようとする心

協調性・・・自分と異なる立場，違う意見や考え方を持つ人たちと協力しながら，同じ目標の達成に向けて行動できる力

忍耐力・・・目標達成に向けて何をしないといけないのかをしっかりと理解し，壁があっても克服し行動できる力

つけたい力	つけたい力を身につけた具体的な児童の姿
向上心	・分からないところや苦手を正しく見つける姿 ・自分に付けたい力を把握して，学習内容を計画する姿 ・自分に合うやり方を考え，計画を修正しながら取り組もうとする姿
協調性	・友達の考えやよさを自分の中に取り入れようとする姿 ・相手がどう考えているかを理解し，受けとめる姿 ・相手の考えや思いを大切にしたい関わり合いをする姿
忍耐力	・自分の気持ちをコントロールして目標に向かう姿 ・できないではなく，自分に足りないものを考えて取り組む姿 ・できない時，できるようになる方法を考え，目標にたどり着く姿

V 研究の仮説

教科の目標とつきたい力の視点を児童と共有し、児童が、自分に合った学び方を選択できるように、個別最適な学びを設定し、振り返りを積み重ねれば、自ら考え、互いを尊重し、学び続ける児童を育成することができるであろう。

VI 単元をつくる考え方

(1) 教材研究・個の見取り

- ・単元が目指す目標、指導事項の確認
→単元構想シートの作成
- ・学習計画（計画表）の作成
学びを委ねる部分の効果的な設定
- ・提示する教材の決定
8割の児童が理解できる教材
I C Tの効果的な活用
- ・学びに向かいにくい児童への手立て
個の支援シート作成
「気になる生徒の支援につなげる」チェックシート（広島県教育委員会）を利用
→どうして難しいのか
→特別支援学級の教材の活用
- ・自分で学び進める児童への手立て

(2) 授業の展開

- ・単元の導入 目標、計画、ふり返しシートを示し、つきたい力を児童と共有
- ・個の学びの見取り、よい学びや目標とする学びの価値づけ
→児童の思考の状況を判断し、適切なタイミングで支援を行う
- ・ふりかえりの質を高める3つの視点（向・協・忍）での評価と価値づけの継続
- ・児童のつまづきを分析し、適切な学習支援を行う → 計画の修正ありき

(3) 評価

- ・指導者もふり返しを行い次の指導に生かす

ふり返し項目

- ① 児童の向上心、協調性、忍耐力がついたか
- ② 単元構想はよかったか
- ③ 学びに向かいにくい児童、自分で学びを進める児童は学習に向かえていたか。

【向上心】

低学年	・じぶんのわからないところをみつけたか。 ・がくしゅうけいかくを，せんせいといっしょにつくることができたか。 ・じぶんにあうやりかたで，とりくめたか。
中学年	・自分のわからないところや苦手なところを見つけたか。 ・自分に付きたい力を見つけ，学習内容を計画したか。 ・自分に合うやり方を考え，計画を見ながら取り組んだか。
高学年	・自分のわからないところや苦手なところを正しく見つけたか。 ・自分に付きたい力を把握して，学習内容を計画したか。 ・自分に合うやり方を考え，計画を修正しながら取り組んだか。

【協調性】

低学年	・ともだちのかんがえのよいところをみつけたか。 ・あいてのかんがえをしっかりきいたか。 ・あいてをきずつけないようないいかたができたか。
中学年	・友達の考えや良いところに気付き，まねしようとしたか。 ・相手がどう考えているかを理解しながら聞いたか。 ・相手の考えや思いを傷つけないような言い方ができたか。
高学年	・友達の考えやよさを自分の中に取り入れたか。 ・相手がどう考えているかを理解し，受けとめたか。 ・相手の考えや思いを大切にしたい関わり合いができたか。

【忍耐力】

低学年	・じぶんのすききらいにかんけいなくとりくめたか。 ・じぶんののがてなことにもあきらめずにちょうせんしたか。 ・できないとき，どうしたらよいかそうだんできたか。
中学年	・自分の気持ちをコントロールすることができたか。 ・できないではなく，あきらめずに挑戦したか。 ・できない時，できるようになる方法を考えることができたか。
高学年	・自分の気持ちをコントロールして目標に向かうことができたか。 ・できないではなく，自分に足りないものを考えて取り組んだか。 ・できない時，できるようになる方法を考え，目標にたどりついたか。

④ 自身の振り返り

単元終了時に，振り返り項目①～③等について振り返り，次の指導に生かす。

VII 検証の指標

検証の視点	方法	達成目標
向上心	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
協調性	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
忍耐力	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
テスト	標準学力調査	・全国平均より国語・算数科共にステップ5を20%以上ステップ1が8%以下の学年が学校全体で80%以上 (学校評価アンケートと同じ)

<向上心アンケート>

- ☐ 授業で振り返りを行っていますか
- ☐ わからないところや苦手なところを見つけようとしていますか
- ☐ わからないことをそのままにせず聞いたり考えたりしていますか
- ☐ もっといいやり方がないかなど学習に前向きな姿勢で取り組もうとしていますか

<協調性アンケート>

- ☐ 友達の考えやよさを自分の考えに取り入れようとしていますか
- ☐ 友達の考えを大切にしながら自分の考えも伝えようとしていますか
- ☐ 自分とは違う考えを受け入れようとしていますか

<忍耐力アンケート>

- ☐ 問題がわからない時にどうすれば分かるか方法を考えたり聞いたりして粘り強く取り組もうとしていますか
- ☐ 学習方法をふりかえり、できなかった理由やできた理由を見つけようとしていますか
- ☐ 学習方法をふりかえり、今よりできるようになるために、学習方法を考えたり変えたりしようとしていますか

VII 研究の計画

月	内 容
5 / 1 (木)	研究内容の共通理解
5 / 8 (木)	全体研修 授業づくり (5・6年)
6 / 5 (木)	学年授業づくり会① (5年 6年)
6 / 12 (木)	学年授業づくり会② (5年 6年)
6 / 19 (木)	授業研究 (5年 6年)
8 / 1 (金)	全体研修 授業づくり (1年 2年) (3年 4年)
8 /	全国学力定着状況調査分析
9 / 11 (木)	学年授業づくり会① (3年 4年)
9 / 18 (木)	学年授業づくり会② (3年 4年)
9 / 25 (木)	授業研究 (3年 4年)
10 / 30 (木)	学年授業づくり会① (1年 2年)
11 / 6 (木)	学年授業づくり会② (1年 2年)
11 / 13 (木)	授業研究 (1年 2年)
2 / 19 (木)	標準学力調査分析
2 / 26 (木)	研究の振り返り・次年度に向けて

R7 年度 講師候補者

ノートルダム清心女子大学

人間生活学部児童学科准教授・インクルーシブ教育研究センター長

青山 新吾 様